

報告せんとす。

その測定法には二法を用ひたり。一つは大顱門の相對する中央距離の平均を求むる法、一つは「ブラニメートル」を使用して面積を求むる方法なり。

7. 乳兒腦膜炎の臨床

東京女子醫學專門學校小兒科教室

原 田 英 子

本院に入院せる乳兒腦膜炎11例（結核性腦膜炎5例、化膿性腦膜炎6例）に就き臨床症狀を觀察するに、殆んどすべて發熱、不機嫌、嘔吐を以つて初まり漸次腦膜症狀を呈し來れども、概してその症狀は年長兒に比し輕度にして比較的末期に現はれる傾向を示せり。

而して大顱門の緊張膨隆は乳兒腦膜炎の主要症狀とみなされてをれども、化膿性腦膜炎の少數に於て極々輕度に之を認めしのみなり。全身痙攣は年長兒に比し非常に多くしかも可なり早期に強度に現はれる様なり。尙結核性腦膜炎に於ける遲脈は2例に於て極輕度にしかも一瞬の間に認め得たるに過ぎず。

8. 短波療法の眼科的應用の經驗

東京女子醫學專門學校眼科教室

岡 本 貞 子

超短波線を眼科領域の疾病治療に試みたるは極めて最近の事にして、之に關する研究報告も未だ多からず。今回本校眼科教室に於てもいさゝか同療法を試みたるを以て茲にその經驗を報告す。實驗例數は未だ少數なるもその結果超短波療法の眼科的應用によりては、急性化膿性炎症に著効を見、即、從來の方法のみによる場合に比してその治療期間を大いに短縮せしめ、且、疼痛に對して著明なる鎮痛作用のあると云ふ先人の指摘に一致したる成績を得たり。尙角膜疾患、虹彩炎、綠内障、眼底出血、其他に應用したるも被驗例少なくその効果は不定なりき。

9. 我産婦人科教室に於ける短波療法

東京女子醫學專門學校産婦人科教室

丸 山 ア ヤ 子

昭和11年4月より昭和12年9月に至る1ヶ年半に當教室に於て實施せる短波療法の判